

事務事業名	公園改修費									担当課	部課名	都市整備部公園課				
予算科目コード	会計	01	款	09	項	04	目	04	細目	002	説明	03	課等の長	西山 博光	電話	4345

1. 事業概要

事業開始年度	昭和 48 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務
事業概要	公園緑地内の老朽化の進む施設の改修・更新を行うことにより、利用者の利便性と安全性を確保しつつ、みどり豊かな都市環境の向上を図り、市民に憩いと潤いの空間を提供する。				
事業目的及び必要性	公園利用者に対して安全で快適な利用環境を提供する。市民の憩いの場である公園の安全を確保するため、公園内遊具の点検、施設の維持補修・改修を実施する必要がある。また、市の花「フジ」を活用した拠点とネットワークを整備するための手法として、維持管理を充実する。さらに、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている公園法面の安全対策を実施することで、公園利用者及び隣接住民等を災害から守る。				
対象	1. 個人	市民			438,968 人
根拠法令等	法律等	都市公園法			

藤沢市市政運営の総合指針2024及び長期的な視点(SDGsの視点)

まちづくりコンセプト		重点施策名
<input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢 <input checked="" type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢 <input type="checkbox"/> スマート藤沢 (その理由) ・公園施設の点検や老朽化した施設の改修を実施することで、公園利用者の利便性の向上を図るとともに、誰もが安全・安心に利用できる環境を長期に渡り維持していくもの。 ・公園、緑地の法面对策を計画的に進めることで、防災・減災に取り組むもの。	災害対策の充実 都市基盤の充実と長寿命化対策の推進	
2030年又は事業終了時の望ましい姿		その他の計画との関連
土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定された公園等の法面对策工を実施することで周辺住民及び施設利用者等の安全確保が図られるとともに、公園利用者が安全・安心に利用できるまちの姿となっている。 Park-PFI事業によって改修を行った鶴沼海浜公園は、民間事業者のノウハウ等により、魅力的な公園にリニューアルされ、多くの利用者が訪れる公園となっている。		第3次藤沢市公共施設再整備プラン(鶴沼海浜公園関連) 藤沢市行財政改革2024実行プラン(鶴沼海浜公園関連)
貢献する主なSDGsのゴール		
11 住み続けられるまちづくりを		
13 気候変動に具体的な対策を		

関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」				
市民意識調査における質問項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
まちと自然環境との調和がとれていること	3.52 点	3.5 点	3.61 点	3.63 点
	点	点	点	点

令和3年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	報酬	127 千円	審議会委員報酬
	需用費	21,441 千円	公園施設修繕等
	役務費	10,747 千円	フジ管理作業等
	委託料	2,398 千円	遊具点検委託
138,028 千円	工事請負費	103,315 千円	法面对策工事
【参考】 令和4年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	需用費	20,872 千円	公園施設修繕等
	委託料	21,537 千円	遊具点検委託、法面調査委託等
	負担金補助及び交付金	148,500 千円	鶴沼海浜公園土木施設・建築物撤去負担金
	工事請負費	218,856 千円	法面对策工事、公園駐車場舗装打換え工事
429,108 千円	その他	19,343 千円	役務費、備品購入費

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
常時勤務職員※	3.50 人工	3.50 人工	3.20 人工	3.20 人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00 人工	0.00 人工	0.00 人工	0.00 人工
非常勤職員	0.00 人工	0.00 人工		
合計	3.50 人工	3.50 人工	3.20 人工	3.20 人工

※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く

会計年度任用職員(配置数)			0.00 人	0.00 人
---------------	--	--	--------	--------

3. 事業実施内容・成果

令和3年度 事業実施 内容	1 土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域にある御所ヶ谷緑地の法面対策工事を実施 2 鶴沼海浜公園改修に向けた公募設置管理制度(Park-PFI)による選定委員会開催及び事業者選定 3 公園内遊具269公園1,075基の点検を実施 4 フジのある8施設にて育成管理を実施						
	指標名	単位	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	備考
成果目標	公園施設の改修率	%	48	56	60	61	
	参考						
活動実績	指標名	単位	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	備考
	改修実績件数(累計)	件	39	45	48	49	
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	公園施設の改修率	%	48	56	60	61	
数値で表せない効果							

4. コスト分析

年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
コスト	行政費用(フルコスト) A	184,342	328,484	258,218	166,575			
	(1)現金を伴う支出 (千円)	184,719	328,454	259,136	166,572			
	事業費(支出済額)	150,992	294,438	229,782	138,028			
	償還金利息	0	0	0	0			
	人件費合計(①+②+③)	33,727	34,016	29,354	28,544			
	①常時勤務職員等の給与等	32,085	31,994	27,622	27,206			
	②会計年度任用職員の報酬等	0	0	0	0			
	③退職金相当額	1,642	2,022	1,732	1,337			
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	-377	30	-918	3			
	①減価償却費	0	0	0	0			
	②退職給与引当金繰入額	-377	30	-918	3			
	③不納欠損額	0	0	0	0			
	④その他( )	0	0	0	0			
	行政収益(事業収入) B	42,700	174,600	142,200	103,300			
(3)現金を伴う収入 (千円)	42,700	174,600	142,200	103,300				
①分担金及び負担金 c	0	0	0	0				
②使用料及び手数料 d	0	0	0	0				
③国庫支出金	13,000	14,000	4,500	0				
④県支出金	0	0	0	0				
⑤その他( 地方債 )	29,700	160,600	137,700	103,300				
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0				
収入未済増減額	0	0	0	0				
収支差額(純費用) A-B E	141,642	153,884	116,018	63,275				
分析指標	項目	公園施設の改修率 F	48	56	60	61		
			単位 %	単位 %	単位 %	単位 %		
	1単位あたりの総費用 A/F (円)	3,840,458.33	5,865,785.71	4,303,633.33	2,730,734.03			
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	329.92	429,317	355.34	433,060	266.63	435,121	144
受益者負担率 (C+D)/A (%)	0.00	0.00	0.00	0.00				

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和2年度末時点の課題	公園利用者における安全性を確保するため、引き続き、遊具点検や施設改修を進めることが必要 遊具改修だけでなく、施設改修については、老朽化や破損状況に応じて、適宜、長期的な視野に立った改修計画の修正が必要 土砂災害警戒区域に位置する公園の法面について定期的な安全確認を行うとともに、計画的に対策を進めることが必要
(2) (1)解決のための令和3年度の取組	公園利用者の安全・安心のため、遊具点検の結果等に基づき、適宜長寿命化計画の見直しを行った中で改修を進めるとともに、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に位置する緑地の法面については、法面対策を行ったことにより、継続的な安全対策を推進した。 鶴沼海浜公園において、Park-PFIを活用し、改修事業を行う事業者の選定を行った。
(3) 令和3年度末時点の課題	公園利用者の安全性を確保するため、引き続き、遊具点検や施設改修を進めるとともに、施設改修については、老朽化や破損状況に応じて、適宜、長期的な視野に立った改修計画の修正が必要 土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に位置する公園緑地の法面については定期的な安全確認を行うとともに、計画的に安全対策を進めることが必要 Park-PFIにおいては、事業者と連携を図り、早期オープンに向け、事業を推進することが必要
(4) (3)解決のための今後の取組	公園利用者や近隣住民の安全・安心のため、遊具点検の結果等に基づき、適宜、長寿命化計画の見直しを行った中で改修を進めるとともに、老朽化が進むトイレなどの施設についても、計画的な補修や改修を行う。 土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に位置する公園の法面については、定期的な安全確認を実施するとともに、計画に基づき対策を進める。 Park-PFIにおいては、引き続き、事業者と密に連携を図り、事業を推進する。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの ○ エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	○ ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	○ ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和3年度支出済額	○ ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	○ ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満
		⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合	○ ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上
		(3) 事業の種類	
		(4) その他の事業特性	
		2. 施設等維持管理	

## 7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	<p>遊具及び施設の老朽化が進んでいる。          少子超高齢化が進むとともに、公園利用者の年齢層及びニーズが変化している。          公園利用者の年齢層及びニーズの変化による施設の更新が求められる一方、より長く安全に使用できるような対策が必要となってくる。          近年の突発的かつ局地的な豪雨や大型台風に伴って頻発化する土砂災害等への対策として、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に位置する公園の法面への対策が望まれている。          民間事業者のノウハウや資金を用いたPark-PFIの活用が進められている。</p>	
	<p>公園施設長寿命化計画については、神奈川県内20市町において策定されている。          Park-PFIについては、神奈川県内4市町で活用されている(2021年4月1日時点)。</p>	
市民ニーズ	把握方法	<p>公園課への直接の要望だけでなく、地域に密着し、市民活動を支える業務を担う市民センター、公民館への苦情・要望をもとに、市民ニーズの把握を行うとともに、必要に応じて要望者と直接面談し、詳細に要望内容の聞き取りをした。また、公園パトロール及び公園管理業務の受託者からの報告やLINE通報による市民からの情報提供により状況の把握を行った。</p>
	把握内容	<p>公園の遊具やフェンスなどの施設の老朽化による破損の補修や、樹木の剪定、伐採作業の要望等。</p>
	対応等	<p>要望確認や遊具点検、現地の確認結果に基づき、施設の補修や更新、樹木の剪定、伐採作業を行った。</p>

## 8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	<p>公園遊具の安全点検を行い、公園の遊具や施設の改修を進めることで利用者の安全・安心が向上した。          市の花「フジ」の適切な育成管理を実施し、花の質の向上を目的とした維持管理に取り組んだ。          土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている公園法面の対策工事を実施し、安全性向上が図られた。          鶴沼海浜公園において、Park-PFIを活用し、改修事業を行う事業者の公募、選定を行うことができ、事業の進捗が図られた。</p>	
今後の方針	まちづくりテーマ	① 安全で安心な暮らしを築く
	事業の方向性	現状維持
	<p>公園ストックの老朽化は今後もさらに進むことが想定されることから、長寿命化を進めると同時に、地域ニーズに合わせた公園ストックの再編成・再整備を行い、将来に向けて施設の適正管理と維持管理費の抑制を検討していく。また、市の花「フジ」の適切な育成管理を行い、拠点づくりとネットワークの形成に取り組む。さらに、公園に対する多様なニーズがある中、限られた予算を効率的かつ効果的に投資することで安全・安心かつ適切な管理運営の実現を推進する。          Park-PFIにおいては、引き続き、事業者と密に連携を図り、事業を推進する。</p>	

## 9. 部長確認欄

部名	都市整備部	氏名	川崎 隆之	確認日	2022/9/2
----	-------	----	-------	-----	----------

事務事業名	公園改修費(繰越分)										担当課	部課名	都市整備部公園課			
予算科目コード	会計	01	款	09	項	04	目	04	細目	002	説明	03	課等の長	西山 博光	電話	4345

1. 事業概要

事業開始年度	昭和 48 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	公園緑地内の老朽化の進む施設の改修・更新を行うことにより、利用者の利便性と安全性を確保しつつ、みどり豊かな都市環境の向上を図り、市民に憩いと潤いの空間を提供する。						
事業目的及び必要性	公園利用者に対して安全で快適な利用環境を提供する。市民の憩いの場である公園の安全を確保するため、公園内遊具の点検、施設の維持補修・改修を実施する必要がある。また、市の花「フジ」を活用した拠点とネットワークを整備するための手法として、維持管理を充実する。さらに、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている公園法面の安全対策を実施することで、公園利用者及び隣接住民等を災害から守る。						
対象	1. 個人	市民				438,968	人
根拠法令等	法律等	都市公園法					

藤沢市市政運営の総合指針2024及び長期的な視点(SDGsの視点)

まちづくりコンセプト		重点施策名	
<input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢 <input checked="" type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢 <input type="checkbox"/> スマート藤沢 (その理由) ・公園施設の点検や老朽化した施設の改修を実施することで、公園利用者の利便性の向上を図るとともに、誰もが安全・安心に利用できる環境を長期に渡り維持していくもの。 ・公園、緑地の法面对策を計画的に進めることで、防災・減災に取り組むもの。	災害対策の充実 都市基盤の充実と長寿命化対策の推進		
2030年又は事業終了時の望ましい姿		その他の計画との関連	
土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定された公園等の法面对策工を実施することで周辺住民及び施設利用者等の安全確保が図られるとともに、公園利用者が安全・安心に利用できるまちの姿となっている。Park-PFI事業によって改修を行った鶴沼海浜公園は、民間事業者のノウハウ等により、魅力的な公園にリニューアルされ、多くの利用者が訪れる公園となっている。		第3次藤沢市公共施設再整備プラン(鶴沼海浜公園関連) 藤沢市行財政改革2024実行プラン(鶴沼海浜公園関連)	
貢献する主なSDGsのゴール			
		11	住み続けられるまちづくりを
		13	気候変動に具体的な対策を

関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」				
市民意識調査における質問項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
まちと自然環境との調和がとれていること	3.52 点	3.5 点	3.61 点	3.63 点
	点	点	点	点

令和3年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	使用料及び賃借料	163 千円	トイレ改築に伴う仮設トイレ賃貸借
	工事請負費	36,300 千円	トイレ改築工事
36,463 千円			
【参考】 令和4年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	工事請負費	51,524 千円	遊具改修工事
51,524 千円			

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
常時勤務職員※	-	-	0.30人工	0.30人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	-	-	0.00人工	0.00人工
非常勤職員	-	-		
合計	0.00人工	0.00人工	0.30人工	0.30人工

※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く

会計年度任用職員(配置数)			0.00人	0.00人
---------------	--	--	-------	-------

3. 事業実施内容・成果

令和3年度 事業実施 内容	片瀬山公園のトイレの改築を実施						
	指標名	単位	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	備考
成果目標	公園施設の改修率	%	48	56	60	61	
	参考						
活動実績	指標名	単位	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	備考
	改修実績件数(累計)	件	39	45	48	49	
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	公園施設の改修率	%	48	56	60	61	
数値で表せない効果							

4. コスト分析

年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
コスト	行政費用(フルコスト) A	0	0	130,746	30,390			
	(1)現金を伴う支出 (千円)	0	0	129,841	39,139			
	事業費(支出済額)			127,089	36,463			
	償還金利子			0	0			
	人件費合計(①+②+③)	0	0	2,752	2,676			
	①常時勤務職員等の給与等			2,590	2,551			
	②会計年度任用職員の報酬等			0	0			
	③退職金相当額			162	125			
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	0	0	905	-8,749			
	①減価償却費			0	0			
	②退職給与引当金繰入額			905	-8,749			
	③不納欠損額			0	0			
	④その他( )			0	0			
	行政収益(事業収入) B	0	0	43,700	36			
(3)現金を伴う収入 (千円)	0	0	43,700	36				
①分担金及び負担金 c			0	0				
②使用料及び手数料 d			0	0				
③国庫支出金			18,000	16,000				
④県支出金			0	0				
⑤その他( 地方債 )			25,700	20,300				
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0				
収入未済増減額	0	0	0	0				
収支差額(純費用) A-B E	0	0	87,046	30,354				
分析指標	項目	公園施設の改修率	単位	単位	60	単位	61	単位
	F				%		%	
	1単位あたりの総費用 A/F (円)				2,179,100.00		498,193.96	
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	0.00	429,317	0.00	433,060	200.05	435,121	69
受益者負担率 (C+D)/A (%)				0.00		0.00		

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和2年度末時点の課題	公園利用における安全性を確保するため、引き続き、遊具点検や施設改修を進めることが必要 遊具改修だけでなく、施設改修については、老朽化や破損状況に応じて、適宜、長期的な視野に立った改修計画の修正が必要 さらに、土砂災害警戒区域に位置する公園の法面について定期的な安全確認を行うとともに、計画的に対策を進めることが必要
(2) (1)解決のための令和3年度の取組	公園利用者の安全・安心のため、遊具点検の結果等に基づき、適宜長寿命化計画の見直しを行った中で施設の改修を推進した。
(3) 令和3年度末時点の課題	公園利用者の安全性を確保するため、引き続き、遊具点検や施設改修を進めるとも、施設改修については、老朽化や破損状況に応じて、適宜、長期的な視野に立った改修計画の修正が必要
(4) (3)解決のための今後の取組	公園利用者や近隣住民の安全・安心のため、遊具点検の結果等に基づき、適宜、長寿命化計画の見直しを行った中で改修を進めるとともに、老朽化が進むトイレなどの施設についても、計画的な補修や改修を行う。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和3年度支出済額	ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満
		⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合	ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上
		(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
		2. 施設等維持管理	

## 7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	遊具及び施設の老朽化が進んでいる。 少子超高齢化が進むとともに、公園利用者の年齢層及びニーズが変化している。 公園利用者の年齢層及びニーズの変化による施設の更新が求められる一方、より長く安全に使用できるような対策が必要となってくる。	
	公園施設長寿命化計画については、神奈川県内20市町において策定されている。	
市民ニーズ	把握方法	公園課への直接の要望だけでなく、地域に密着し、市民活動を支える業務を担う市民センター、公民館への苦情・要望をもとに、市民ニーズの把握を行うとともに、必要に応じて要望者と直接面談し、詳細に要望内容の聞き取りをした。また、公園パトロール及び公園管理業務の受託者からの報告やLINE通報による市民からの情報提供により状況の把握を行った。
	把握内容	公園の遊具やフェンスなどの施設の老朽化による破損の補修や、樹木の剪定、伐採作業の要望等。
	対応等	要望確認や遊具点検、現地の確認結果に基づき、施設の補修や更新、樹木の剪定、伐採作業を行った。

## 8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	公園遊具の安全点検を行い、公園の遊具や施設の改修を進めることで利用者の安全・安心が向上した。	
	まちづくりテーマ	① 安全で安心な暮らしを築く
今後の方針	事業の方向性	休止・廃止・完了
	公園ストックの老朽化は今後もさらに進むことが想定されることから、長寿命化を進めると同時に、地域ニーズに合わせた公園ストックの再編成・再整備を行い、将来に向けて施設の適正管理と維持管理費の抑制を検討していく。また、公園に対する多様なニーズがある中、限られた予算を効率的かつ効果的に投資することで安全・安心かつ適切な管理運営の実現を推進する。	

## 9. 部長確認欄

部名	都市整備部	氏名	川崎 隆之	確認日	2022/9/2
----	-------	----	-------	-----	----------